

名戸ヶ谷ビオトープだより

第24号

2007年4月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

春の田植え準備始まる

在来水田

昨年末に解体された水田廻り木道下の畦を補修しました。木道の解体作業に重機を使ったらしく、畦の部分はガタガタになっていましたが、会員の力で周囲の土を盛り上げ、畦を補修しました。また、ホテルゾーン側には水路を新設しました。水田作業より土木作業で大変でしたが、ご協力ありがとうございました。水田の中に3m余りの杭が3本残っていました。また、3月に入り、在来水田では「田起こし」を開始しました。

足元が大変なので、少しずつ、交代しながら作業をすすめています(3/10, 17日、24日)。田植えの頃までには稲株などが自然の力で土に還っていくでしょう。(小笠原 智)



ぬかるみと悪戦苦闘しながら田起こし

不耕起水田

— 初仕事は水田周りの畦作り —

07年度活動初仕事に水田周りの畦作りを選択し、2月11日(日)、4名の参加で作業を始めました。昨冬の木道撤去の際に荒らされた跡地に新しい畦道を作ることとなった。地権の侵害をせぬよう、簡単な墨出しを行い、畦作りを始めた。延長約40mほどの工程に2方向より着手。慣れた作業とはいえ、久し振りの肉体労働に息が上がる。初日の作業は2時間ほどで終了。2回目、2月24日(土)に引き続き延伸工事を行った。およそ2時間の作業で畦道らしくなったが、脆弱な構造のため、「作業効率および自然観察」を重視することを目的とした木道新設工事をすすめることとし、手馴れた小笠原設計事務所に依頼しました。他方、不耕起水田に注水するために水位調整の排水路を塞ぐ土留めを行い、田んぼの生きものに春の贈り物をしました。(窪田孝志)



水路築き畦作り

回生の里側に木道新設

— 小笠原設計事務所とビオトープ建設合同の労作 —



たこ木を使った打ち込み

2月の合同作業日に、昨年末に解体されずに残っていた回生の里広場下の旧木道を解体し、隣に新しい木道を新設しました。長さ150cmの杭を、たこ木を使って打ち込みましたが、足元が悪く作業は大変でした。1m間隔で2列に打ち込み、高さを揃え、上に根太を通し、踏み板を敷きました。13人が昼休みをとりながら作業を続けた結果、立派な木道が出来上がりました。環境保全課でも驚いていたそうです。幅を広げ、湧水池前の手すりも変更したため、段差もなくなって歩行しやすくなったと思います。なお、Aゾーンの木道新設工事は4月の合同作業日に計画していますので、みなさんの協力をよろしくお願いします。(小笠原 智)

ホタル・生きもの部会

2月上旬のニホンアカガエルの産卵から、いよいよ賑やかになってきました。ニホンアカガエルの産卵は2月上旬から平年通り見られましたが、当初産卵数が少なくて心配したものの、今年は産卵期間が長いらしく、その後も卵塊があちこちで見られるようになり、現在では池や田んぼにたくさんのおたまジャクシの泳いでいる姿が見受けられます。



また、昨年同様、今年もホタルの幼虫を60～70匹程放流します。今年は放流前に名戸ヶ谷小学校の児童に観察してもらってから、と考えておりますので、実際の放流は4月中旬以降になる予定です。

4月21日(土)10:00～12:00の時間帯で「ビオトープ春の生きもの観察会」(ホタル・生きもの部会、植物部会共催)を開催します。春の昆虫や草花を楽しみませんか？

また、5月には観察会とは別に、生態系調査を柄澤先生の指導で行う予定です。こちらは日程が確定しましたら追ってご連絡します。こちらの方もみなさんのご協力、よろしくお願いします。(松清 智洋)

合同作業日の報告

2月17日(土)の合同作業日には写真(右)のような立派な木道を完成させました。P.1の写真(工事途中)と比較してください。完成した新規木道の上で撮った記念写真も併せて紹介します。(写真下)また、ムーミンパパから次のような原稿が寄せられました。

(広報担当)



ムーミンパパのカルガモ日記

「パパ、あのオジサンたち何やってんの？あんなに大勢で汗をかきながらドスン、ドスン…」

「あれはね、去年生まれたお前たち新入りのカルガモのために滑走路を作ってくれているのよ」

「何言ってるのよ。あれは、お母さんカルガモたちのためにエアロビのスタジオを作ってくれているのよ」

「何言っているんですか。あれは車椅子の人たちや元気な子どもたちがビオトープに安全に遊びに来てくれるようにと、道路を作ってくれてるんだよ」



「いえいえ、あれは自然に興味を持っている人たちが僕らと友だちになるための架け橋を作っているんだよ」

「ぼくたち、新入りのカルガモ兄弟。なんだかよくわからないけど、人間さんたちと仲良くなりたいなあ」

「オジサンたちはね、君たちと仲良くなるため、そして自然に対する理解や興味をもつ大人や子どもたちが増えてくれることを願ってこの木道を整備しているんだよ。それと、きみたちの遊び場にむげに踏み込んで驚かしたりしないようにね。この木道の上から、きみたちが大きく丈夫に育つのをそっと見ているからね。早く育って立派な大人になるんだよ」

春の花だより



四月になったらビオトープの花を見に行きませんか。四月から五月の連休にかけて、ビオトープは春の花で一杯です。

まず、田んぼの畦(あぜ)に目を向けてみましょう。直径3cmの黄色の花が乱れ咲いています。**オオジシバリ(写真左上)**と言い、昔からの畦道の常連です。オオジシバリの近くにハコベに似た小さな白い花が密生していませんか。それは**ノミノフスマ(写真左中)**で、これも畦道でよく見かける花です。



畦や水田の中でもっとも小さい白花の四弁花が点々と咲くのが**タネツケバナ(左下)**です。ビオトープの水田で最初に咲く花です。これによく似て、大型の白い花が浅い水中に咲いていますが、これが**オランダガラシ(写真右上)**、別名クレソンです。栽培用に輸入されたものが野生化したものです。田植え前の田んぼの中に黄色の花が2種類見られます。花が1cm以下のものが**タガラシ(写真右中)**、1cm以上のものが**キツネノボタン(写真右下)**です。



大昔、イネと一緒に日本へ輸入された水田雑草です。最後に紹介するのが**ヒメヘビイチゴ(写真中央下)**です。千葉県絶滅危惧種に指定されている貴重な花です。ヘビイチゴにそっくりですが、小柄です。ビオトープの北東端の水辺に生えています。今年は木道が取り壊されていますので、観察には注意してください。(佐々木光正)



ビオトープの生きもの



モズ モズ科

日本では北海道から九州まで分布しているが、北日本のモズは冬季暖地に移動する。鋭い嘴を持つ小型の猛禽類である。農耕地の周辺、川原、林縁など、低木の開けた環境に生息する。木の枝やヨシ、杭などの高いところに止まって見張り、昆虫やカエルなどを見つけると舞い降りて捕らえる。捕らえた動物を木のトゲや

小枝に刺しておく習性があり、モズの「はやにえ」(写真右)と呼ばれる冬の保存食である。秋にはキイーキイーと高鳴きするほか、他の鳥の鳴き声も真似る。ビオトープではBゾーンのヨシの中で観察されることが多い。



ツグミ ヒタキ科

シベリア方面から冬鳥として日本に渡ってくる。山地や山林、農耕地、芝生、川原など、いろいろな環境で生活している。秋に渡来した後は群れで木の実などを食べているが、冬になると分散し、開けた場所で見られることが多くなる。畑などではミミズなどの小動物を捕らえて食べる。地鳴きは「キョツ キョツ」とか、「クイ クイ」という特徴ある声だが、「クワツクワツ」とか「ツイー」という声も出す。2月17日、Bゾーンの木道工事を行ったが、当日完成した木道を最初に渡り初めたのはこのツグミである。(篠崎 将)

当面4～5月の日程 (天候の都合で変更ある場合にはビオトープ掲示板に掲示)

4月21日(土) :ビオトープ生きもの観察会(ホタル・生きもの部会、植物部会合同)

4月中旬 :ホタル幼虫放流

4月21日(第3土曜日) :合同作業日

5月5日(祝) :代掻き

5月8日(火) :名戸ヶ谷小5～6年生 田植え

教育公務員弘済会より奨励金

(財)日本教育公務員共済千葉支部より、ビオトープを育てる会の活動の環境教育に対する貢献に対して、奨励金(10万円)をいただくことになりました。3月9日、名戸ヶ谷小学校校長室において、杉田校長立会いの下に、阿部書記長より授与されました。ビオトープにおける夏休みの教職員研修及び名戸ヶ谷小学校5～6年生への稲作指導や11月の「ふれあいの集い」への協力が認められたものです。この奨励金は「名戸ヶ谷ビオトープガイド」の制作に充てられることになっています。(篠崎 将)

編集後記

小春日和で桜の花びらが一斉に開花。ビオトープも春の花便りを届けてくれています。代掻きを待つ田んぼの水中では孵化したオタマジャクシが元気に泳ぎまわっています。木道新設に続いて田起し、畦直しなどの田植え準備も始まりました。4～5月にかけては、ホタルの幼虫の放流、代掻き、田植え、生態系調査、生きもの観察会等、目白押しです。名戸小5～6年生による田植えに間に合うようにAゾーンの木道も整備しなければなりません。引き続き、みなさんのご協力をお願いします。広報担当(春山)